

「学生とシニアの対話イン長岡技術科学大学 2014 年度」事後アンケート結果

平成 26 年 7 月改 1

整理担当：大野 崇

平成 26 年 6 月 25 日に行われた対話会における学生からのアンケート結果を整理したものである。

対話会に参加した学生 58 名のうち、51 名の学生（全員修士課程（1 年 50 名、2 年 1 名）から回答を得た*。

専攻の内訳は、原子力 4 名、非原子力 47 名であり、原子力防災という特異なテーマに対し非原子力専攻の学生が主体に議論をしたというのが特徴であった。

なお、希望進路を決めているものは 21 名（電力 3 名、原子力メーカー 3 名、他のメーカー 12 名、研究機関 2 名、進学 1 名）であったが、半数以上（30 名）がまだ、進路を決めていなかった。

* 設問 6.~12. については無回答者が 1 名おり集計結果は 50 名となっている。

対話会に対する学生の印象は、再度のシニアとの対話会を望む声もあり総じて好意的で、特に、林さんの「原子力問題を考える」と題した講演は、非原子力の学生にとって新鮮に映ったようで、話も分かり易く好評であった。

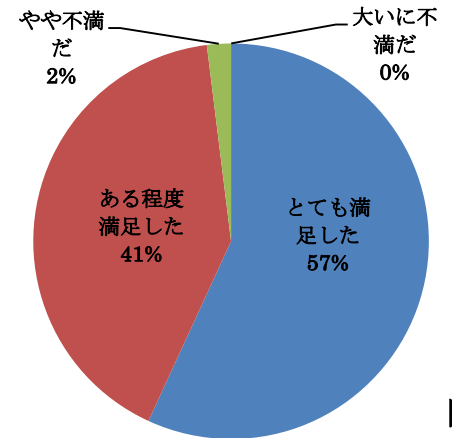
項目のうち、9. 今回の対話で自分の学科との関連性を見出すことができましたか？ 10. 対話の内容から将来のイメージができましたか？ 11. 対話の中でシニアが思う若手の役割を理解できましたか？ 12. 自分が思っていた若手の役割とシニアの考えは違いましたか？については、原子力専攻学生向けの設問であったため、今回は非原子力の学生が多く、回答に困っていたように見受けられ設問に工夫が要ると感じた。

以下に、各設問の選定した主要な理由や意見を記載する。なお、設問 13 の全体感想・意見についてすべて記載したが他の設問については同一内容のものは適宜統合した。

1. 講演の内容は満足のものでしたか？その理由は？

とても満足した：29人 ある程度満足した：21人 やや不満だ：1人 大いに不満だ：0人

- ・深い内容の講演を聴いて原子力の理解が深まった。
- ・原子力発電の重要性を深く学ぶことができた。
- ・原子力の現状や環境問題との関係性について理解できた。
- ・原子力のいろいろな話を聞くことができ知らない知識を多く得ることができた。
- ・今後のエネルギー問題、他の発電コストの現状が理解できた。
- ・データに基づく説明で理解しやすく分かりやすかった。
- ・安全性だけでなくエネルギー問題での原子力のメリットも考慮すべきと感じた。
- ・原発に対する疑いが少し解消できた。
- ・ためになる内容なのに時間が短すぎ。もう少し聞きたかった。

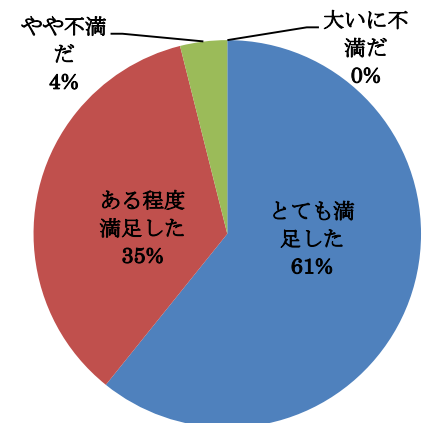


問1

2. 対話の内容は満足のものでしたか？その理由は？

とても満足した：31人 ある程度満足した：18人 やや不満だ：2人 大いに不満だ：0人

- ・時としてテーマの内容を逸脱したがいろいろな話が聞けた。
- ・実際に現場を経験した技術者の話を聞くことができ貴重な対話ができる。
- ・建設的な議論を通しテーマに対する理解が深まった。
- ・自分の思っていることに対し議論ができた。
- ・議論が円滑に進み、熱のこもった議論ができた。
- ・普段はシニアと対話する機会がないので非常に良かった。
- ・我々の質問に対し非常に丁寧に対応してくれ、自分達の考えを示し多くの返答をしてくれた。
- ・シニアの話が長く、質問や意見が述べにくかった。
- ・時間が足りず、発言があまりできなかった。
- ・テーマである放射線影響予測、情報伝達経路途絶時の不確実性について理解できた。
- ・これといった解決策が見つからなかった。

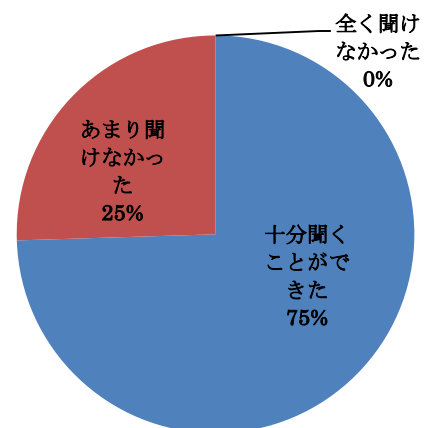


問2

3. 事前に聞きたいと思っていたことは聞けましたか？

十分聞くことができた：38人　あまり聞けなかった：13人　全く聞けなかった：0人

- ・テーマ以外のことを多く聞きたかったが、聞きにくかった。



問3

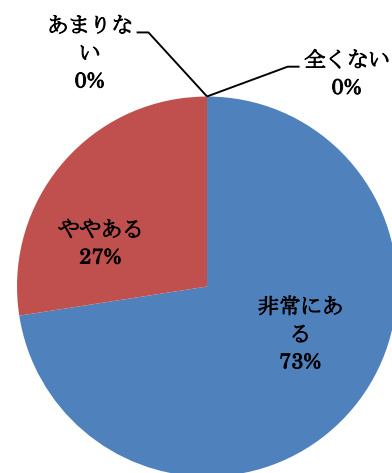
4. 今回の対話で得られたことは何ですか？

- ・メディアやインターネットでは知ることのできない、自分の経験からくる知識。
- ・一般の人にも正しい知識と情報を持つ必要があること。
- ・原発の実態と報道との差違。
- ・一般人は聞くことができない原子力側の生の声を聞いた。
- ・広い視野でものを捉え、知識を深めることの重要性の認識。
- ・シニアの考え方、技術者の考え方、論理的な説明の重要性に触れることができた。
- ・福島事故時の放射線拡散予測、国・住民・国民隔たりなどの問題が分かった。
- ・手段途絶時にラジオの重要性など情報伝達の重要性や、避難の課題が分かった。
- ・放射線について正しい理解がなされていないことが分かった。
- ・テーマの理解が深まった。
- ・グループ討議の難しさを感じた。
- ・確率など定量的議論が必要なこと。
- ・(福島事故では) 事故対応が政治的要因で邪魔されたこと。現場に任せることが一番であること。

5. 「学生とシニアの対話」の必要性についてどのように思いますか？その理由は？

非常にある：37人 ややある：14人 あまりない：0人 全くない：0人

- ・インターネット等で調べても分からないこと、プロフェッショナルの知識を聞ける機会であるから。
- ・我々は知識不足、認識不足であるのもっと開催すべき。
- ・具体的な原子力の話や現状を知ることができ非常に価値がある。
- ・震災や事故などの経験者の話を聞いたのはありがたかった。
- ・我々が当然と思っていたことがシニアと考えが異なり、ものの見方を多面的に見る必要性を認識できた。
- ・専門家の方と話す機会は重要。我々の中で意見を言わない人がいたが、もっと積極性を持たなければいけない。
(シニア側も発言を促すことが必要である)

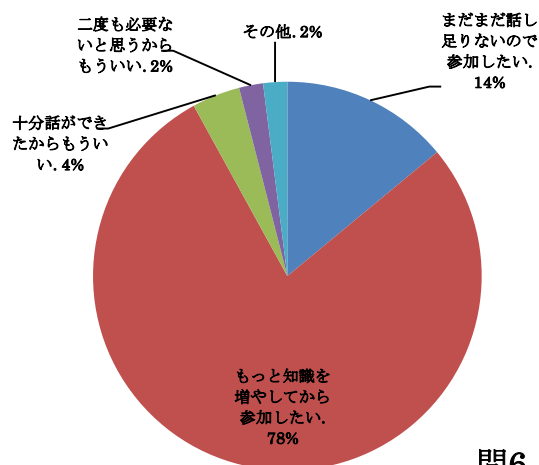


問5

6. 今後、機会があれば再度シニアとの対話に参加したいと思いませんか？

まだまだ話したりないので参加したい：7人 もっと知識を増やしてから参加したい：39人
十分話ができたらもういい：2人 二度も必要ないと思うからもういい：1人 その他1人

- ・もっと原子力に直結したテーマであれば参加したい

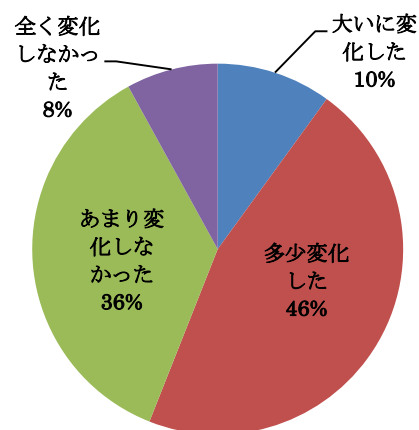


問6

7. エネルギー危機に対する認識に変化はありましたか？その理由は？

大いに变化した：5人 多少变化した：28人 あまり变化しなかった：13人 全く变化しなかった：4人

- ・エネルギー工学専攻なので興味深く聞いた。
- ・原子力が必要であることが改めて分かった。
- ・原発以外の災害の話も聞いた。
- ・原子力以外のエネルギーの現状、背景を知ることができた。
- ・原子力のコストの話を知らなかったので勉強になった。
- ・知っていたことだが、(エネルギー危機を)改めて考えさせられた。
- ・原発の必要性、エネルギー危機については理解していた。
- ・自分たちの生きている間、エネルギー問題は大丈夫と思う。
- ・今日の話は既に知っており、新たな知識は得られなかった。

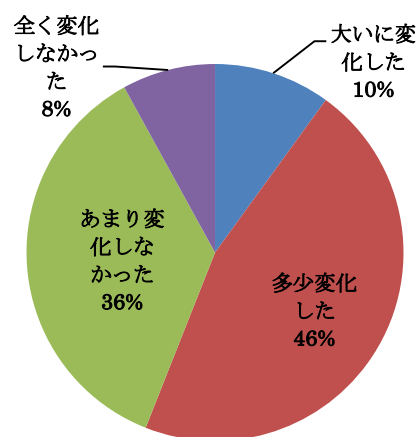


問7

8. 原子力に対するイメージに変化はありましたか？その理由は？

大いに变化した：5人 多少变化した：23人 あまり变化しなかった：18人 全く变化しなかった：4人

- ・世界を支えているエネルギー源であることが分かった。
- ・原子力は必要であるかもしれないことが分かった。
- ・安易に脱原発を唱えるのはおろかであることが分かった。
- ・知識があれば、それなりに自分で対処することができことが分かり危機感が薄らいだ。
- ・福島事故での放射能の影響は、2、3日の余裕があり、(自分が)思っていたほどでないことが分かった。
- ・勉強もしており事前知識もあったので特にイメージ的变化はない。
- ・いわき市在住で原発事故の渦中を経験していたので、イメージ的变化なし。
- ・(福島事故における)津波の影響や放射線の危険性が分かった。
- ・福島事故では情報伝達に問題があることが分かった。

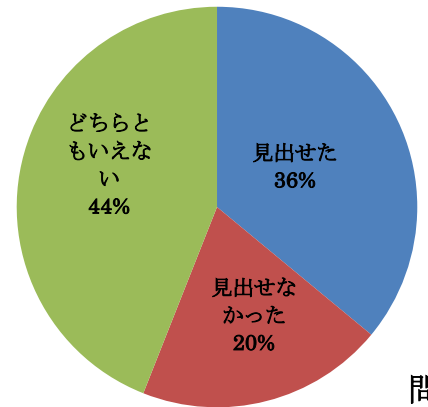


問8

9. 今回の対話で自分の学科との関連性を見出すことができましたか？その理由は？

見出した：18人　見出せなかった：10人　どちらともいえない：22人

- ・避難経路の確保、ハザードマップは、都市計画を考える上で重要なファクターであるから。
- ・原子力規制に重要な地震対策は、自分の研究分野であるから。
- ・津波対策の構造物設計が関連。
- ・原子力施設地域住民とのリスクコミュニケーションの重要性という点で関連。
- ・原子力防災対策の重要性という点で関連。
- ・情報の伝達経路、デバイスの重要性という点で関連。
- ・テーマ内容がリスク問題、政治問題であったので直接関係しなかった。
- ・テーマは自分の学科とは直接関係なかった。
- ・ルートや伝達機器の話だったので直接関係しなかった。

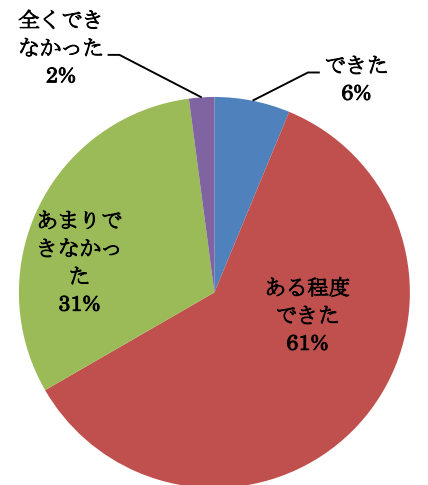


問9

10. 対話の内容から将来のイメージができましたか？その理由は？

できた：3人　ある程度できた：29人　あまりできなかった：15人　全くできなかった：1人

- ・自分の将来の夢とテーマとの関連性が強く、具体的な将来像が見えた。
- ・対策をすれば原子力を安全に運転できることが分かった。
- ・エネルギーの種類を考えるとCO2問題を考えなければいけないことが分かった。
- ・原子力の位置づけや必要性がある程度イメージできた。
- ・住民が風潮に左右されない或いは間違った理解をしないために正しい情報の提供の必要性がある程度イメージできた。
- ・原子力防災についてどのように避難すれば良いかの現状把握と今後どんな対策が必要かについてある程度イメージできた。
- ・防災計画は県、市町村が考えなければならないことがある程度イメージできた。
- ・改善された原子力災害対応はまだ案の段階で、実際に事故が起こって見ないとその有効性はよく分からずイメージできなかった。
- ・原発は必要なのであるから設問の意味が分からない。

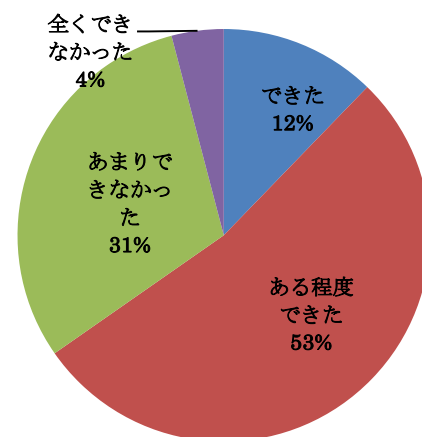


問10

11. 対話の中でシニアが思う若手の役割を理解できましたか？またその理由は？

できた：6人　ある程度できた：26人　あまりできなかった：15人　全くできなかった：2人

- ・正しい知識を付け、メディアの声に流されないために正しいものを取捨選択する能力を付けるべきと思った。
- ・技術系の自分たちが知識を広げ、正しく理解し、家族や他の人に正しく説明できるようになるべきと思った。
- ・若手が意識啓発を行い放射線などの危険をまず理解すべきと思った。
- ・原子力防災について（若手が）理解し、広く伝えていかなければならないと思った。
- ・現状で不十分なことを指摘するなどの行動を起こすことが大切と思った。
- ・対話ではそのような話は出なかった。設問の意味がよく分からない。
- ・知る、考えることは重要性だが、若手だけの役割とは思わない。



問11

12. 自分が思っていた若手の役割とシニアの考えは違いましたか？どのような違いがありましたか？また、シニアの考えを聞くことで、自分の考えに変化はありましたか？できるだけ詳しくお答えください。

- ・自分たち若い世代が防災についてもっと学ぶべきだと思った。
- ・自分たちの考えが狭くもっと広げるべきだと思った。
- ・原子力防災は国が指示を出すことも知らなかった。
- ・シニア方の話は実際に多くの体験に裏打ちされており、具体的、詳細に物事を考える必要があると感じた。
- ・もう少し自分の知見を深めるべきだと改めて感じた。
- ・対話ではそのような話題にはならなかった。
- ・シニアの若手の役割への期待は自分の思っていたことでもあり、あまり違いを感じなかった。

13. 本企画を通して全体の感想・意見などがあれば自由に書いてください。

- ・とても充実した楽しい議論ができうれしかった。
- ・良い対話会でした。
- ・とても良い機会でした。

- ・こういうディスカッションの場を経験することはあまりないので良い経験ができた。
- ・ざっくりした知識しか持っていなかったが今回の対話会を通してかなり深まったと思う。
今後原子力に対してもっと勉強していきたい。まとめの時間がもう少し欲しかった。
- ・とても楽しく、自分の糧になった。
- ・実際に講演を聴き、対話を行って、今後技術者として安全管理及びリスクマネジメントについて少なくとも最低限の知識は得ることができたと思い参加して良かったと思う。
- ・非常に勉強となったので、時間が短かった。
- ・とてもためになりました。
- ・非常に面白い企画だったと思います。
- ・テーマとは別にシニアの方に個人的な質問ができて良かったです。
- ・充実した時間を送れました。
- ・時間が短かった。
- ・周りが騒がしく議論の声が聞き取りにくかった。
- ・合わせて 70 人が議論するので声が埋もれてしまい、聞き取るのが大変だった。
- ・学生数が多すぎた。事前調査不足なのとリーダーの指示不足で聞くだけで議論に参加できなかった。
- ・一方的にシニアが話す時間が長く、あまり議論ができずに時間があっという間に過ぎた
- ・企画の具体的内容の連絡が遅く、企画自体の目的の共有が足りなかったため、調べる内容や話の仕方、資料の作成が十分とはいえず影響を与えたと思う。是非、当日のスケジュールや内容は早めに回して欲しい。

以上